

意欲に応え、可能性を広げる 愛知淑徳の授業

時代の先を見据えた教育に力を注ぐ愛知淑徳学園(大学・高等学校・中学校)のさまざまな授業を紹介いたします。
生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる教育現場の熱を伝えます。

大学

健康医療科学部
医療貢献学科
視覚科学専攻

川瀬 芳克ゼミ

川瀬 芳克教授



主体的な研究活動に挑み、
医療人に必要な力と志を磨きます。

視機能に関する検査

や訓練などに携わる、視能訓練士。その専門職に就き、長年、チーム医療の一員として第一線で活躍してきた川瀬芳克先生は、ゼミで学生の学び続ける力を鍛えています。「日々進歩する医療や、多様な症例・事例にどう対応するか。問題意識や問題解決力を持ち、自ら考え行動を起こす視能訓練士を、医療現場は必要としています。その力を伸ばすために、ゼミでは学生主体の研究活動を3年次から実施しています」と川瀬先生。学生は視覚科学の幅広い分野からロービジョンなどの研究テーマを見出し、仮説を裏付ける実験の計画・実行にも意欲的。データを分析して考察を深め、研究結果を堂々とプレゼンテーションしています。川瀬先生から医療人の志も学ぶ学生は、次代を担う視能訓練士へと着実に歩みを進めます。

高校

愛知淑徳高等学校

生物

木下 典子教諭



一人ひとりの「なぜ」を大切にし、
主体的に考え、学ぶ力を養う。

「なぜだろう?」という

疑問は、学びを深め、新たな世界と出会うための第一歩となります。その探究心の芽を伸ばす科目のひとつが、生物です。木下先生は観察や実験などを数多く取り入れ、生徒が自分の目で見て学び、実感とともに知識を積み重ねていく授業に努めています。大切にしているのは、一人ひとりへの発問。生徒たちが観察力、思考力、分析力などを高め合えるよう、質問や発言を活発にできる雰囲気づくりに心がけています。また、愛知淑徳中高の理科全体の取り組みとして3年に1回、夏休みに「理科旅行」を実施。今年は森の健康診断や化石発掘などを行い、身近な自然から地球環境に至る諸問題への関心も養いました。木下先生は「生物の学びを、大学での学修・研究、その先の仕事や社会生活にも活かしてほしい」と期待を寄せ、生徒の主体性も育んでいます。